いやった



コラム1 [を] の表現

みなさんは、ひらがなの「お」と 「を」をどう区別して言いますか? 「を」は奈良時代には〔wo〕と 発音され明確に区別されていたよう

ですが、平安時代以降、混同して使用されるようになりま す。現代は「お」〔o〕と同じ発音であるため、両者を区別 する際に、各地でさまざまな表現方法が存在します。大阪で は、小学校などで『難しい方の「を」』と教えることがある ようです。

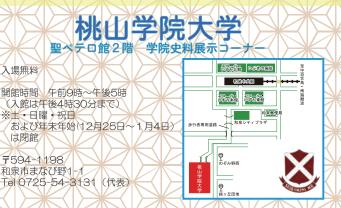
コラム2 よういわんわ」

関西弁で「よういわんわ」とい うフレーズをよく耳にします。こ れは「そんなこと言えない」とい う意味ですが、「あきれてものが 言えない」や、「恐れ多くてそん

なこと言えない」など、人や場面によってさまざまなニュ アンスがあるようです。

西日本では不可能を表す表現として「読めん・書けん・ 見られん」のような「動詞の可能形の否定」によるもの と、「よう読まん・よう書かん・よう見ん」のような「副 詞『よう』+動詞の否定」によるものとの2種類の言い方が あります。これらは互いに意味が少し異なるようです。

たとえば、「読めん・読めへん」といえば「電気が暗お



方言は、文化や生活様式など、地域の特色をとてもよく表して います。メディア等でよく耳にする「関西弁」は、大阪市を中心 に使用される、いわゆる「大阪弁」であり、泉大津市をはじめと する泉州地方の言葉とは異なるものです。

私たちが毎日当たり前に使っている「生きた言語」である泉大 津の方言を50音かるたでご紹介します。

よう読んどいてや。おおつやったら、こない言うんや。

主催 泉大津市教育委員会·桃山学院大学

方言から見る泉州・泉大津 中井 精一(富山大学教授)

他の地域では・・・ ・強調して「うぉ」と発音(主に東京) ・つなぎの「を」(主に関東地方) 重たい「を」(群馬を中心とした地域) ・くっつき(助詞)の「を」 ・かぎの「を」(秋田) ・腰曲がりの「を」(青森) ・下の「を」(新潟、大分など) ・小さい「を」(富山) ・難しい方の「を」(主に大阪)

()()***()***()***()***()***()

て読まれへん」とか「眼鏡がないから読まれへん」という ように「状況による不可能」を表しますが、「よう読ま ん」といえば、「こんな難しい字、よう読まん」というよ うに、「能力的不可能」や「そういう気になれない」とい う意味での「不可能」をあらわします。

ですので、「よういわんわ」はもともとは能力や気分な ど、人的要因により「言えない」ことを表すことばであっ たようです。

「そんなことよう言わんわ」 …… そんなこと言える気がしな う意味 「そんなこと言えへんわ」 況じゃないと言う意味。

い、言う気になれないとい そんなこと言えるような状





泉州弁の特徴として、人の性格や 気質を表す言葉がたくさんあること があげられます。「おおつの人間は いらちやからな」という言葉もよく 耳にします。

「いっちょかみ(何でも口をはさむ 人)」や、「あまえた(甘えん 坊)」や、「いきり(格好つける 人)」、「いちびり(調子者)」な どの様々なタイプの人を指す言葉が あったり、形容詞に「~がり」をつ けた「うれしがり」や、「~しい (~する人) | をつけて「ええかっ こしい」「いらんことしい」などと 表現するのも特徴的です。



「ぐいち」は関西で広く使われる 言葉です。もとは博打でさいころの 5と1が出ることを「ぐいち(五 一)」というのを、さいころの5と 1は上下になっていないことから、 互い違いになることを「ぐいちに なっている」と表現するようにな り、現在でも泉州地域では日常の場 面でよく使われます。

「さら(新品)」、「わや(台無 し)」、「べった(最下位)」な ど、短い言葉で状態を表現する言葉 がある一方、「あけどんどん(開 けっ放し)」のように、語呂良く表 現する言葉もあります。



泉州独特の言い回しのひとつに 「おっちん(=座るの意。地域に よっては「おっちんとん」と も。)」があります。また、「いら う(さわる、いじる)」「ほかす (捨てる)」が関西で広く使われる 言葉に対して、「鍵をかぐ(かけ る)」は泉州独特な方言であるよう です。

「みーする(魚の身から骨を取り 除く)」や、「たーする(田仕事を する」など、省略言葉も使われま す。



「ちゃりげ(もみあげ)」や「め ばちこ(ものもらい)」などの関西 特有の名詞や、「みーいく(筋肉痛 になる)」といった独特な言い回し があります。

また、関西では広く腫れ物やでき もののことを「でんぼ」といい、で んぼができたら「でんぼの神さん」 にお参りに行ったといいます。「で んぼの神さん」とは、東大阪市にあ る石切劔箭神社のことで、今でも癌 封じや病気平癒の神社として知られ ています。



数量・回数・頻度の表現が多様で あることも泉州の特徴です。 なかでも「たくさん」を意味する 言葉が複数あり、「ぎょうさん(よ うさん)」「ようけ」「たんと」 「ぐっすら」「せんど」などと表現 されます。

これらは生き物や食べ物など、指 し示すものによって使い分ける場合 もありますが、人により使い方が異 なる場合もあり、明確な区別はない ようです。



語尾に「~やし(~だよ)」を付 けたり、疑問文の語尾に「~け」と 付けるのは、泉州弁の特徴です。

また、共通語とは同じ単語であっ ても用法が異なるものがあります。 <例>>

- 「つぶれる」…共通語では「押しつぶされて 平たくなったさま」をいうが、泉州では故障 するという意味でも使われる。
- ●「ぬくい」…共通語では通常、食べ物に対し ては使用されないが、泉州ではあたたかいと いう意味で食べ物にも使われる。
- ●「ややこしい」…共通語では「込み入ってい る」「複雑でわずらわしい」という意味だ が、泉州では「はっきりしない」「判断しに くい」という意味でも使われる。



